

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境			0.30					3.3
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.30	-	-			
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		4.5	0.25	-	-			4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F 材料を使用、かつ低VOC材料を使用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
1 換気量	「建築物衛生法」の1.2倍以上の換気量を確保。	4.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮	汚染源のない箇所に外気取入口を設け、排気口と12m以上離す	4.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視	マニュアルを作成し、手動による監視を計画。	4.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	館内を禁煙とし、喫煙室を確保。	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.9
1 機能性		4.0	0.40	-	-			4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	12㎡/人以上の居室面積を確保。	5.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	事務室の天井高=2.7m	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画	木質材料を取り入れた内装、内観パースの作成等。	5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	ホコリ溜りのない設計、ハト対策、外部鉄骨のメッキ処理等。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	各階WCにSKを設置し、ハルブ等は管理しやすい位置とする。	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-			3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ボード類:30年、ビニル床タイル:30年、鋼製建具:30年 20年	5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	「建築設備の耐久性向上技術」(1986)に定められるBを採用。	5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	負荷率の低い系統は空調運転を停止するシステムを導入。	4.2	0.19	-	-	-
	2	給排水・衛生設備	大便器6L/回,小便器1.5L/回の便器を採用。	5.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備	非常用発電機, サーバーをUPSでバックアップ, 電気室1F設置。	4.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法		5.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備	光ケーブル・携帯電話, MDF・サーバーを2Fに設置。	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				4.0	0.20	-	-	-
3.1 空間のゆとり				4.5	0.29	-	-	4.5
1 階高のゆとり				5.0	0.31	-	-	-
2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	3.0	-	-
2 壁長さ比率 = 0.048				5.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0	-	-
13000N/m ²				5.0	0.38	-	-	-
3.3 設備の更新性				3.8	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	-
2 給排水管の更新性				4.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				5.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性				5.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペース				4.0	0.22	-	-	-
バックアップスペースの確保(屋上, サーバー室等)				4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0
外構緑化指数13.5%, 自生種に配慮, 適切な緑地づくり等。				3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				4.0	0.40	-	-	4.0
壁面後退, 植栽による景観形成, 設備目隠し壁等を3Dで検証。				4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上				3.0	0.50	-	-	-
外構に県産の材料を使用, 防犯性の配慮				3.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-
空地率70.4%, 設備機器の50%以上を屋上設置, 燃焼機器なし等。				3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.2
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				4.0	0.29	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用				5.0	0.50	-	-	-
太陽光パネルを設置し, 発電した電力を施設で利用している。				5.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化				5.0	0.43	-	-	5.0
ERR=86.4%				5.0	0.43	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)				5.0	-	-	-	-
集合住宅の評価				3.0	-	-	-	-
ERR=86.4%				3.0	-	-	-	-
4 効率的運用				3.5	0.29	-	-	3.5
4.1 モニタリング				4.0	0.50	-	-	-
照明・コンセント・空調等の用途別に計測, 傾向管理ツール導入。				4.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護				3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水				4.0	0.40	-	-	-
超節水型機器の採用				4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				4.0	0.67	-	-	-
雨水を緑地散水に利用。				4.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				4.0	0.63	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減				4.0	0.07	-	-	-
コンクリートFc = 39N, 鉄骨F = 325, 高支持力杭の採用				4.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.21	-	-	-
ビニル床タイル, 磁器質床タイル, インターロック型ブロック等				5.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.25	-	-	-
乾式壁により, 分別が可能, OAJ07等のユニット材を使用。				5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.2	0.22	-	-	4.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4.0	0.32	-	-	-
ビニル床タイル接着剤に無機系接着剤を採用。				4.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				4.3	0.68	-	-	-
1 消火剤				4.0	0.33	-	-	-
ハロゲン化物消火剤を使用していない。				4.0	0.33	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				5.0	0.33	-	-	-
ODP = 0かつGWP(100年) = 50未満の断熱材を採用。				5.0	0.33	-	-	-
3 冷媒				4.0	0.33	-	-	-
ODP = 0かつGWP(100年) = 50未満の冷媒を採用。				4.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮				4.0	0.33	-	-	4.0
LCCO2排出率73%				4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				5.0	0.25	-	-	-
燃焼機器を使用していない。				5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制				5.0	0.25	-	-	-
駐輪場, 駐車場を100%以上確保。				5.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				3.5	0.33	-	-	3.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				4.0	0.40	-	-	-
1 騒音				3.0	0.50	-	-	-
2 振動				5.0	0.50	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
第3種地区の基準と比べ25dB以上低く抑えている。				-	-	-	-	-
3.2 風害, 日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				4.0	0.70	-	-	-
2 壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-
広告照明無し, ガイドラインの一部を満足している。				4.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-